

**製品名: CD69 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08439**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

**抗原情報**

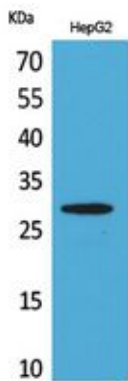
遺伝子名	CD69
別名	CD69; CLEC2C; Early activation antigen CD69; Activation inducer molecule; AIM; BL-AC/P26; C-type lectin domain family 2 member C; EA1; Early T-cell activation antigen p60; GP32/28; Leukocyte surface antigen Leu-23; MLR-3; CD69
遺伝子 ID	969.0
SwissProt ID	Q07108
免疫原	抗血清はヒト CD69 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

**背景**

この遺伝子は、カルシウム依存性レクチンスーパーファミリーに属する II 型膜貫通受容体をコードしています。コードされているタンパク質の発現は T リンパ球の活性化によって誘導され、増殖に関与している可能性があります。さらに、このタンパク質はナチュラルキラー細胞や血小板においてシグナル伝達に作用する可能性があります。[RefSeq 提供、2011 年 8 月]、発生段階: リンパ系活性化時に獲得される、最も初期の誘導性細胞表面糖タンパク質。、機能: リンパ球の増殖に関与し、リンパ球、ナチュラルキラー (NK) 細胞、および血小板においてシグナル伝達受容体として機能します。、誘導: T リンパ球および B リンパ球表面上の抗原、マイトジェン、または PKC 活性化因子によって。IL-2 と NK 細胞表面の p75 IL-2R との相互作用によって。、オンライン情報: CD69, PTM: 成熟胸腺細胞と活性化 T リンパ球の両方で恒常的な Ser/Thr リン酸化。、類似性: 1 つの C 型レクチンドメインを含む。、サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合。、組織特異性: 活性化 T 細胞、B 細胞、ナチュラルキラー細胞、好中球、好酸球、表皮ランゲルハンス細胞、血小板の表面に発現。、

## 研究分野

## 画像データ



CD69 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。